



地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

Face to Face,

Heart to Heart

富山市民病院 富山今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112代 http://www.tch.toyama.toyama.jp / 発行日 2019年6月

乳がんについて



乳腺外科 吉川 朱実



乳がんの罹患率は現在、日本の女性のがんの中で最も高いものです。また、乳がんは30～64歳の女性のがん死亡原因の第1位です。確実な予防法はありませんが、早期発見すれば高い確率で治せる病気です。早期発見にはマンモグラフィー（乳房エックス線撮影）や超音波検査が有用です。

治療は、根治（再発しないように治すこと）を目的に、有効な治療法を組み合わせで行います。手術療法、放射線療法、薬物療法から必要なものを、患者さんの希望を聞きながら最適な順序と組み合わせで行います。

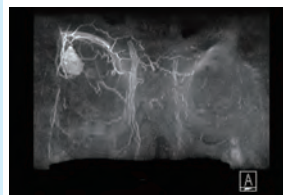
薬物療法には、女性ホルモンを抑えるホルモン療法や、がん細胞の特定の分子を狙い撃ちする分子標的薬、化学療法（抗がん剤）があり、がん細胞のタイプに応じて選択します。

乳房内のがんの範囲が広くなければ、がんの部分を手術で切除し、放射線療法を組み合わせで残せる乳房を残す「乳房温存療法」があります。

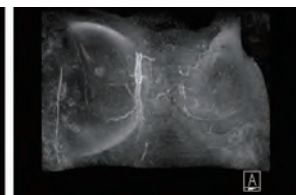
きちんと放射線治療を行う「乳房温存療法」では、乳房全体を切除する「乳房切除術」と治療成績は同等です。

乳房温存希望の患者さんでしこりが大きい場合、化学療法の対象となるタイプでは「術前化学療法」で小さくしてから手術をします。また、乳房切除術が必要な場合は、乳房再建の選択肢もあります。

治療前



治療後



術前化学療法で縮小した右乳がん

1. 地域連携症例検討会

日時：7月9日(火) 19:00~21:00 場所：当院3階 講堂

1) 症例検討(2例)

①『進行非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬併用療法の使用経験』

呼吸器内科 田森 俊一

②『触法行為に至った高次脳機能障害の2例』

精神科 長谷川雄介

2) ミニレクチャー：「STOP!!合併症ーハイリスク患者に対するCVC挿入と安全管理ー」

麻酔科、ペインクリニック内科 松浦 康荘

中心静脈カテーテル(CVC)挿入は、全身管理を目的に日常的に行われている医療行為であるが、リスクを伴う手技でもある。平成27年10月から開始された医療事故調査制度による医療事故報告でもCVC挿入手技に係る死亡事例が報告され、平成29年3月、『中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析-第1報-』がまとめられた。この医療事故再発防止に向けた提言、第1号の中で調査されたCVCの合併症による死亡10事例中7例の患者は血液凝固障害を認め、その内3例は慢性腎不全で維持透析中の患者であった。また全例で浮腫や腹水、低アルブミン血症があり血管内脱水が疑われた。この提言の中で、血液凝固障害、血管内脱水のある患者は特に致命的となるリスクが高く、CVC挿入の適応については末梢挿入型中心静脈カテーテル(peripherally inserted central catheter,

PICC)による代替を含めて慎重に決定しなければならないと述べられている。当科でもこれを考慮して、CVC挿入リスクの高い患者に対してエコーガイド下にPICCを挿入する機会が増えており、気胸や出血による致命的合併症の回避につながっていると考えている。当科ではPICCを超音波ガイド下に上腕動脈、正中神経、上腕静脈を同定し、上腕の静脈から挿入している。PICC挿入時の上腕動脈誤穿刺は起こり得るが圧迫止血でほぼ対応可能である。また四肢拘縮などでPICCやCVC挿入困難が予想される患者にはカテーテルの挿入を断念するという選択肢も致命的合併症の回避には重要である。

当科におけるハイリスク患者に対するCVC選択の考え方、挿入手技と安全管理について紹介します。

予告

※8月の開催はありません。

日時：9月10日(火) 19:00~20:15 場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 2例(外科・小児科)

②ミニレクチャー (担当) 神経内科

2. 内科CPC

※7月・8月の開催はありません。

3. 感染予防対策学習会

※すべて同じ内容です

日時：7月8日(月)

①15:00~15:35 ②17:30~18:05

7月16日(火)

①12:15~12:50 ②15:00~15:35

7月31日(水)

①12:15~12:50 ②17:30~18:05

場所：講堂

○テーマ：当院の感染対策と薬剤耐性菌検出状況

○講師：感染管理認定看護師 平野 規久
臨床検査技師 柴山 直美

4. 緩和医療部会学習会

日時：7月9日(火) 17:30~18:15

場所：看護外来

○テーマ：退院支援と退院調整

○講師：社会福祉士 八木 智矢
緩和ケア認定看護師 金丸 修子

5. 糖尿病研究会定例学習会

日時：7月18日(木) 17:45~18:30

場所：看護外来

○テーマ：これなら継続できる食事療法は？

○講師：管理栄養士 小澤 佳恵

6. 褥瘡対策学習会

日時：7月26日(金) 17:30~18:00

場所：301会議室(旧 集団指導室)

○テーマ：病院における褥瘡のマネジメント

○講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 関口 聡子

7. NST学習会

日時：7月22日(月) 17:30~19:00

場所：講堂

○テーマ：在宅栄養管理について

○講師：まちなか診療所 三浦 太郎先生

8. 看護研修

※衛星研修は、予約申込みが必要です。ふれあい地域医療センターへご連絡ください。

(TEL076-422-1112代表 内線2989)

『衛星研修S-QUE Eナース』

○テーマ：やさしい12誘導心電図の読み方

～モニター心電図を卒業しよう！

視聴期間：7月9日(火) ~8月2日(金)

○テーマ：高齢者心不全患者のケア

～急性期から慢性期への長期管理

視聴期間：7月23日(火) ~8月16日(金)



院内の専門職員のご紹介

NST専門療法士とは？

一般社団法人日本静脈経腸栄養学会認定 NST 専門療法士
臨床検査科 微生物検査係

臨床検査技師 堀江 妙子



栄養とは、生物が生きる上で必要不可欠なものです。私たちは普段、食事をとって様々な物質を体内に取り込み、分解したり組立てたり、利用したりすることで、生命を維持しています。

患者さんが入院した時、あるいは、入院中に治療や手術をした時、さまざまな理由によって栄養を適切にとれないことがあります。栄養の摂取と消費のバランスが大幅に崩れると、治療の効果があまり出なかったり、生活の質が改善しなかったりします。

NST (Nutrition Support Team: 栄養サポートチーム) とは、患者さんの栄養管理を、患者さんの疾患や治療に応じて実施していく多職種でできたチームです。主に、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフで

チームを構成し、それぞれの役割をもって、患者の栄養状態を評価したり、栄養治療の計画を立てたりしていきます。

NST 専門療法士は、日本静脈経腸栄養学会 (JSPEN) が認定する資格制度で、栄養サポートに関する専門知識を有すると認められた人のことです。NSTにかかわる医療スタッフが資格を取得することで、共通した栄養治療の知識を持つことができ、より連携して患者さんの栄養サポートを行うことができます。

臨床検査技師は血液などの検査は実施しますが、NSTに参加することはこれまでほとんどありませんでした。NST 専門療法士の資格を得たことを皮切りに、NSTの一員としてもっと活躍できたらと考えています。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

7月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	家城	1日	整形外科・ 関節再建外科	澤口	26日
	打越	25日		岩井	30日
	山田	24日	呼吸器・血管外科	瀬川	30日
	山口	1日		湖東	29日
外科・消化器外科・ 乳腺外科	藤村	18日	土岐	5日	
	寺田	11日	麻酔科	松浦	19日
	竹下	30日	精神科	長谷川雄	5日
脳神経外科	庄司	17日	耳鼻いんこう科・ 頭頸部外科	辻	29日
	筒井	22日～26日	歯科口腔外科	寺島	19日、30日、31日
		吉田		8日	

※その他、急に不在となることがありますのでふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。
TEL 076-422-1112 (代) 内線 2168

編集後記

元号が平成から令和に変わり、皆さんいかがお過ごしでしょうか？最近暑い日が続いており、巷では「熱中症」を引き起こす方が増えてきたように感じます。熱中症とは、気温の高い環境で発症する健康障害の事です。暑い場所にいると多量の汗をかき、熱中症の初期段階である脱水状態になります。脱水状態を放っておくと、様々な症状を誘発し熱中症・熱射病を発症してしまいます。そうならない為にも適度な休憩・水分補給など熱中症予防をしっかり行い、体調管理には気を付けていきたいと思います！

中央研究検査部 生理検査係 浦野 麻由



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp